

COVID-19陽性患者もしくは疑い患者に対する手術時の感染対策Case Report集計結果(5月24日から5月30日回答分)

	症例数	手術	
陽性	9	帝王切開	2
		気管切開	4
		開腹手術	2
		整形外科手術	1

COVID-19疑い患者	3	開腹手術	2
		帝王切開	1

事前シミュレーション実施		あり	7
		なし	5
		記載なし	0

手術室で気管挿管	5	McGRATH	3
(喉頭展開1回で挿管)	(5)	AWS	1
区域麻酔	3	喉頭鏡	1
既挿管	4		
記載なし	0		
SGA	0		
	PPE	フェイスシールド	6
		ゴーグル	5
		シールド付きマスク	1
		記載なし	0

N95	11
PAPR	0
サージカルマスク	1
手袋2枚	11
手袋1枚	1
記載なし	0

自由記載

陽性	開腹手術	原則、麻酔覚醒・抜管は陰圧室に帰室後に行っています。
	帝王切開	抗凝固薬を服用していたため、拮抗し、脊髄くも膜下麻酔のみの管理とした。患者さんはマスクをした上で高流量リザーバマスクなので、医療者が暴露される可能性がある。対応した医療者はワクチン接種後であるが、何らかの感染防御の更なる工夫が必要と感じた。
	気管切開	人工鼻を外さないように管理した。
	気管切開	気管切開術中のチューブ入替時など、エアロゾル発生に最大限の注意を払っていたが、終刀後、術者の不注意で気管切開チューブと麻酔器との接続が不用意に外れてしまった。集中力を欠いてしまっていたと思われる。
	気管切開	ベッド移乗などでバックリング防止のため、筋弛緩投与後に移乗。手術終了後もバックリング防止のため筋弛緩投与しICUへ帰室した。
疑い	開腹手術	挿管下に帰室
	開腹手術	術中にPCRマイナ判明。一般病棟へ